

特別展 わたしが選んだ 富弘さん展

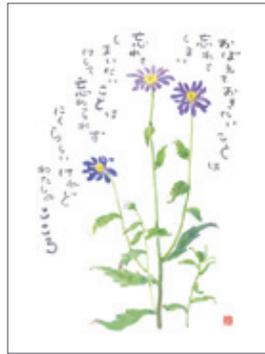
本展では、美術館で実施している来館者アンケートの回答結果をまとめ、「好きな詩画は見つかりましたか？」で挙げられる、特に人気の高い作品の数々を展示します。ユーモアたっぷりのつい笑ってしまいそうな作品から、ホッと心を和ませてくれるもの、勇気づけてくれるような作品まで、来館した一人ひとりのその時々々の心に語りかける、星野富弘の作品をどうぞご覧ください。



「小菊」1981年



「今日という日」2015年



「こころ」1990年

季節の常設展「冬」

「同じ重さ」や「雪割草」、「雪の道」など、冬をテーマとする作品を展示します。



「同じ重さ」1986年



「雪割草」1997年



「雪の道」1986年

【お知らせ】

「第14回星野富弘美術館詩画公募展」

「詩画公募展」では、一人ひとりの体験や感性から生まれるオリジナルな詩画作品を募集しています。日常にある身近なものを題材に、気軽に詩画づくりに挑戦してみませんか。出品をお待ちしております。詳細につきましては、星野富弘美術館（0966-86-1600）にお問い合わせいただくか、美術館ホームページをご参照ください。募集期間：～2021年1月31日必着



星野 富弘（ほしの とみひろ）

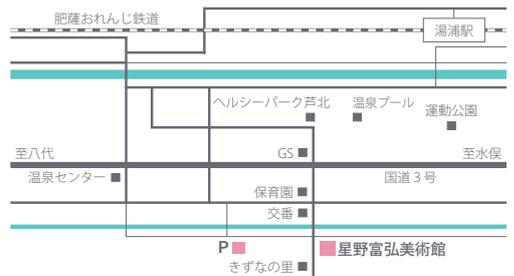
1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。大学を卒業後、中学校の体育教師になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したときに誤って頭部から転落。頸髄を損傷し、首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかき始める。前橋で最初の作品展を開く。退院後、新聞等に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催。以降、全国各地また海外でも開催され現在も続いている。1991年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。2006年、芦北町立星野富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

ミュージアムショップ

星野富弘『花の詩画集』をはじめ、その他書籍、絵はがき、詩画集カレンダー等さまざまな商品を取り揃えています。観覧料なしでご利用できますので、お気軽にお立ち寄りください。

美術館までのアクセス

○JR九州新幹線「新水俣駅」から肥薩おれんじ鉄道線で「湯浦駅」まで13分/湯浦駅から歩いて15分
○JR九州新幹線「新八代駅」から肥薩おれんじ鉄道線で「佐敷駅」まで5分/佐敷駅からタクシーで10分
○九州自動車道「八代IC」から南九州西回り自動車道「芦北IC」まで30分/芦北ICから15分
○南九州西回り自動車道「水俣IC」から「津奈木IC」まで5分/津奈木ICから15分



※美術館玄関前に、障がい者用駐車スペースがございます。
※バス等の駐車については、美術館までお問い合わせください。



芦北町立

星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町湯浦 1439-2
TEL:0966-86-1600 FAX:0966-86-1600
http://www.hoshino-museum.com

(姉妹館) 富弘美術館・群馬県みどり市東町草木 96 TEL:0277-95-6333 FAX:0277-95-6100

どうして熊本県の芦北町に星野富弘美術館？

休止されていた星野富弘「花の詩画展」が、1994年の熊本県立美術館での開催を境に再開されます。それが契機となり、その1年後に「星野富弘詩画がある芦北ふるさとギャラリー」が芦北町に開設。以後、交流が続くなかで富弘美術館（群馬県みどり市）の唯一の姉妹館として、2006年に「芦北町立星野富弘美術館」が誕生しました。当美術館は、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければ幸いです。